



年頭ご挨拶

富士通株式会社 代表取締役社長

田中 達也

新年あけましておめでとうございます。読者の皆様方には平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。皆様にとりまして、本年が希望に満ちた実り多い年となりますよう心からお祈り申し上げます。

多くの皆様が実感していらっしゃるように、現在、デジタルテクノロジーの進化があらゆる産業に変革をもたらしています。今までのやり方にブレイクスルーをもたらし、もう後戻りできないような画期的で優れた製品・サービスが登場しています。そして今後、より広範に影響力を持つイノベーションが生み出され、人々の暮らしや社会をより豊かにするものと期待されています。

例えば、公共交通や都市計画を大きく変える可能性のある自動運転車、デジタル技術を活用した画期的な金融サービス、あるいはビッグデータを駆使した新たな予防医療などへの期待は大きく高まっています。これらは、これまでの企業や業界の枠を越えた連携によって生み出されるもので、実現に向けた様々なパートナーシップや取組みが既に進みつつあると同時に、技術開発や標準化を巡る競争も世界レベルで始まっています。

これらの大きな変化は、後で振り返ると新たな産業革命と言われるのではないかと確信しております。18世紀の産業革命の背景に蒸気機関という新たな動力源があったように、現在起こりつつある革新においてはICTの新たな力が大きな役割を果たすものと考えています。

特に、全てのものがネットワークにつながるInternet of Thingsは、こうした革新のベースになります。それは、センサーや各種デバイスから得られる大量の情報をタイムリーに有効活用できる世界です。既に、例えば畑やビニールハウスに設置したセンサーデータを基に作物の栽培を最適化する、あるいはスマートハウスに設置したセンサーデータからそこに暮らす方の健康状態を把握するといったことに使われ始めています。これがゆくゆくは先ほど挙げた自動運転車の実用化をはじめ、自律的な生産システム、都市の最適化を実現する土台になると考えています。そのためには、各種のセンサーやモバイルテクノロジーに加えて、大量のトラフィックを扱うためのネットワーク技術、ビッグデータ、クラウド、人の判断をアシストするAIなどのコアテクノロジーが必要となります。加えて、全てのものがネットワークにつながる時代においては、サイバー世界のリスクはそのまま現実世界の脅威となるため、セキュリティの重要性は、これまでにも

増して高まります。

ICTに携わる企業には、こうしたコアテクノロジーの強化にしっかりと取り組むと同時に、複雑・高度化するテクノロジーを使いやすいサービスとして提供していくことが期待されていると考えております。同時に、多様な企業や団体の皆様との連携を深め、エコシステムのメンバーとして、イノベーションに貢献していくことが重要であると考えています。

富士通は、人を中心に置いて、人を幸せにする「ヒューマンセントリック」な社会の実現に当たり、その舞台裏で富士通のテクノロジーやサービスが日々の暮らしやビジネスの基盤をICTでしっかりと支えている、そのような会社でありたいと考えています。そして、これからもICTとインテグレーション力を磨き、運用サービスを充実することによって、あらゆるシーンで人を幸せにするとともに、人の集まる社会や企業をより高度化し、人や社会の安心・安全に貢献してまいります。

富士通は、ICTを通じてイノベーションの創出をお手伝いし、お客様のビジネスの発展と豊かな社会の実現に向けた挑戦を続けてまいりますので、何卒、倍旧のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。